

<図・写真>



<材料・製作方法等>

(材料)

カゴ, ベルト, クランプ (100 均),
おもり (砂袋 or 鉄アレイ)

(製作方法)

- ① 車椅子の下部にカゴをはめる
- ② カゴが外れないようにベルトやクランプを着ける
- ③ 用途に合わせて砂袋や鉄アレイを入れ、重さを調整する。

※ カゴの下に雑巾を着けると清掃活動にも活用できる。

<ねらい>

- ・ 車いすを操作する感触を明確にし、動かしているというイメージを高める。
- ・ 一度の操作で進む量を制限することで、巧緻性を高める。
- ・ 動きたい気持ちに応えることで、自己刺激（ロッキング）の軽減につながる。
- ・ ロッキング時の転倒の防止になる。

<指導方法・留意点等>

- ・ 車椅子操作時は 3 キロ程度のおもりを入れ、操作の様子を見ながら重さを調整する。(上手に操作できるときは軽く、壁にぶつかるときは重くする)
 - ・ 動きたい気持ちを満たす際には、動きたい欲求を満たしつつ、動きをある程度制限するため、10～15 キロ程度のおもりを入れる。
- ※ あまり重くすると姿勢が崩れたり、漕ぐ姿勢が崩れたりするので、様子を見ながら対応する。

<指導経過・成果・課題・展望等>

(指導経過)

- ・ 9月に遠足で水族館に行った際に、絨毯上で操作しやすそうに漕ぐ様子を見る。
- ・ 9月、学校での車椅子こぎで緩やかな登り傾斜で「グッ」と力を入れられる姿を見る。
→ 負荷の掛かる状態での車椅子操作は有効ではないか？と仮説を立て、カゴを制作。(10月)
- ・ 10～12月。巧緻性の向上に伴い、おもりの重さを7キロから3キロに徐々に減らす。
- ・ 12月、負荷無しでもコントロールできるようになり、移動教室での移動を自操で行えるようになってきた。

(成果)

- ・ 車椅子操作の向上 (ほとんど壁にぶつからずに角を曲がったり、教室に入ったりできる)
- ・ ロッキングの軽減 (動けることで、リムを操作して動こうとする)

(課題)

- ・ 動きを制限したいときの負荷のかけ方。(重すぎると姿勢が崩れるため)
- ・ 雑巾掛けなどでの有効利用の方法。(固定の仕方など)

(展望)

- ・ 少しの負荷を掛けつつ、継続的に利用することで、スピード、操作性ともにもう少し成長し、一人(教師の見守り程度の支援)で移動ができるようになってほしい。